

札幌市立白楊幼稚園

〒001-0024

北区北 24 条西 7 丁目 1-10

【白楊小学校との連携に至る経緯】

本園は、小学校と幼稚園が隣接しているという好条件を生かし、10 年以上前から交流が続いている。最初は、学校施設を園児が利用することから始まった。徐々に無理のない形で連携を広げたり整理したりしていき、現在に至っている。



園児の店ごっこで5年生が買い物をしている

【連携の実際】

- ・職員間の交流としては年度初めに全職員での顔合わせを行った。昨年度までの幼児と児童の交流の実際を映像で確認し、小グループに分かれて教諭間で互いの教育内容などの話し合いを行った。
- ・子どもの交流活動としては、「5・5デー」と称し週1回、5年生と5歳児が本園での遊びを通しての交流を日常的に行っている。園庭で鬼ごっこやサッカーなど体を一緒に動かして遊んだり、お店ごっこのお客さんになってもらったりなどの園での遊びのほか、行事前に互いの演目を見せ合うなどの計画的な活動も行っている。また、5歳児だけでなく、3，4歳児も自分から小学生を遊びに誘うなど関わっていく姿が出てきている。
- ・小学校の施設活用としては同じ敷地内にある好条件を生かし、小学校のビオトープやグラウンドを日常的に活用させていただいたり、畑を借用したりと保育環境の幅が広がり、幼児の生活が豊かになっている。



小学校の観察池で金魚を見る3歳児

【連携の成果と今後に向けて】

子どもの交流活動では小学生の優しさや実際の姿に触れたり関わったりして、憧れをもったり遊びの刺激を受けたりと園児の遊びが豊かになり、自分からいろいろな人に関わるコミュニケーションの力がついてきたと感じる。

今後も小学校の先生方との子どもたちの姿を通しての情報交換や話し合いを重ね、よりよい交流のもち方を工夫したり、交流を重ねる中で幼児期に何が育つのかについて確かめたりし、互惠性のある交流を行っていききたい。



一緒に遊んで、楽しかった！またきてね。

そうせい幼稚園

〒001-0924

北区新川4条13丁目2-41

北
区

【新光小学校との連携】

年間4回程度一年生との交流を行っている。

◆種いもを植えよう（5月）

種いもを植えた後は、小学校の遊具等と一緒に遊んだりしながら交流を図っている。

◆おいもほり・おいもパーティー（9月）

いもの収穫後は、茹でた芋と一緒に食べたりしながら交流をしている。

◆学習発表会見学（11月）

1年生の練習風景を見学している。

◆小学校探検（2月）

学校内の様々な教室を見学したり、一年生の授業風景を見学させてもらったりしている。また、学校の先生への質問コーナーなどを設け、子どもたちの疑問や不安などにも応えて頂く場面も設けている。



小学校の畑で一年生と一緒に
種いもを植えている様子……。



おいもパーティー…。

上記の他にも、小学校の先生に園での活動の様子を見学に来て頂いたり、園からも小学校の授業参観に参加させていただく機会を設けたり、お互いの教育活動の充実を図るために、教師間での幼小懇談会を行っている。

【成果】

- ・連携前は小学校に対する不安をもつ子が多く、特に3学期は不安定になることも多かったが、連携を始め、年に数回ではあるが、実際に学校に行くことにより、期待をもつ子が多くなってきた。また、学習発表会や授業風景の見学は、より現実的に捉えることが出来るようで、とても関心をもって見学している。

【考察】

- ・保護者は、小学校との交流があることで、大きな不安が少なく就学がスムーズだと大変喜んでいる。
- ・年に数回の交流ではあるが、より交流を深め新たな取組としては、どのような活動が適切か検討する必要がある。それぞれのカリキュラム等があるので、お互いが無理なく行える形で継続していきたいと考えている。

アートチャイルドケア 札幌百合が原保育園

〒002-8081

北区百合が原1丁目1番1号

【栄緑小学校との連携】

・連携の様子

自分より大きいお姉さん、お兄さんと一緒に遊ぶ中で絵本を読んでもらったり遊びを教えてもらったりする事で、園児は喜んでいる。小学生も初めのうちは少し緊張していたが、時間が経つにつれて言葉掛けをしながら関わっていた。

・連携に至る経緯

運動会で栄緑小学校のグラウンドを借りる話をする中で連携が取れるようになっていけると良いですねとの話になり、栄緑小学校の校長先生、教頭先生と話して10月3日に6年生5名が職業体験として10時～12時まで、3歳以上児のクラスに入り、10月30日には2年生7名が生活科学習の一環として20分ほど見学し、園長やクラス担当に質問などをする機会を設ける事になった。

【成果】

設立2年目という新しい保育園という事もあり、今年度が初めての小学校との連携という形になった。園児にとっては小学生に憧れをもったり、小学生になると今までできなかったことができるようになったりするという喜びを感じていた。

【考察】

『継続することのよさ』

小学校が身近な存在になる事。お互いに刺激を受けながら過ごす事ができる時間がある事は貴重である。

『新たな取組の検討』

新年度が始まる前にあらかじめどのように交流するかを話合う機会をもち、定期的に交流をもてるようにしていきたい。

例えば、年長児が学校に出向いて学校見学や授業の様子を見るなどの機会がもてると良い。

『その他』

他にも札幌市立中央中学校3年生6名も職場体験学習で9時～15時まで本園の3歳以上児と交流する。

新川西さくらこ保育園

〒001-0931

北区新川西 1 条 4 丁目 2 -45

【連携内容】

【5 月 22 日】今年度は 7 月 5 日の運動会を新川小学校で実施することになったので、5 月 22 日のお弁当の日に新川小学校に行き、（年長クラスは往復徒歩、年中クラスは往復中央バスを使う）グラウンド、体育館で遊んだり、中庭でお弁当を食べたりした。

【7 月 5 日】新川小学校体育館をお借りして運動会を行った。3、4、5 歳児クラスについては 6 月 19 日、25 日の午前中、体育館をお借りして練習を行った。また、前日は準備の為、3 時頃から荷物を搬入し、準備を整えた。体育館およびマット、コーン、マイク設備などをお借りし、使い方等教えていただいた。担当の先生とは何度も電話やメールのやりとりで、準備を整えた。



小学校の中庭にて
お弁当を食べる



新川小学校体育館での運動会

【成果】

- ・電話やメールでやりとりしたり、下見に伺ったりして小学校の先生方と顔見知りになれ、親しみが増した。
- ・保育士が運動会の開催場所として体育館の広さ、設備について下見することができた。
- ・雨天の心配なく準備を進める事ができた。
- ・放送設備も使えたので、音響効果が良かった。
- ・屋根のある体育館なので、直射日光が何時間もあたる事がなく、体の負担が軽減された。特に乳児に対しては安心であった。
- ・乳児が床でハイハイできたり、年長児はマットを使った体操を取り入れることができた。
- ・保護者の方々もゆったり見ることができた。
- ・新川小学校の校長先生、総務の先生が練習や準備、本番と見に来てくださって子どもたちの様子を見ていただけた。

【考察】

近隣の小学校とは言っても園から徒歩 40 分以上（約 2.5 km）かかるので、行きやすい環境ではないが、このたびの幼保小連携推進協議会の集まりで、小学校の校長先生や先生と出会い、お話を何度かすることから、訪問すること、運動会を開催することを快く受け入れていただいた。子どもたちも兄弟がいたり、卒園児がいたり、自分自身もいずれ通うことを意識して、大変嬉しそうだった。

小学校での運動会は、保護者の皆様にも職員にも好評であった。運動会当日の朝、9：00 からスタートであったが、8：00 前から保護者の車が次々入ってきたので、慣れない場所で車の誘導が大変であった。こちらもさまざまな状況を想定はしていたが、駐車の方法については、課題が残った。

本番前に 2 回、体育館をお借りし、幼児クラスの競技が練習できたことは、とてもありがたかった。

札幌市立白楊小学校

〒001-0024

北区北 24 条西 7 丁目 1-1



【園庭で 5 歳児と遊ぶ 5 年生】

学習時間を使った全体での企画や反省会、イベントの準備やリハーサルなどのためには、総合的な学習の時間 34 時間を充てている。今年度は、体育館でミニ運動会を行った後、給食交流会を企画したり、学芸会への招待状を作成したりしていた。学習のねらいは、①思考力・判断力、②人間関係力・表現力、③自己省察力・自己肯定感の 3 つである。

この他、児童集会「白楊オリエンテーリング」への招待や地域・PTA との共同企画「白楊アイス・スノーキャンドル」への参加依頼を継続している。

【成 果】

年間を通しての交流活動により、より濃密な関係ができあがり、「よそゆき」でない会話や企画ができるようになる。そして、翌年 4 月から始まる 6 年生としての様々な活動に生かされていくというのが大きな成果である。また、幼稚園教諭との綿密な打合せが必要になることもあり、年度始めのうちに互いの顔合わせ会を設定することになった。全教職員が顔を合わせる機会をもつことで、気軽に声を掛け合えるようになり、就学後の児童の成長なども話題に挙げられるようになった。また、今年度新たに幼稚園の保護者会に出向いて、小学校と幼稚園の違いや就学前に準備しておくことやよいことなどを伝える機会をもてたことも成果だったと考える。

【考 察】

総合的な学習の時間の活動として教育課程に位置付けたことで、交流活動や両者の連携を長く継続していける見通しができた。しかし、当該学年と他の学年の意識の温度差は否めない。また、幼稚園側からは、参観に合わせて授業を見にきていただいているが、小学校側からは保育を見に行く機会がほとんど取れないのが現状である。今後、どのように機会を作っていくかが課題である。



札幌市立屯田小学校

〒002-0857

北区屯田7条6丁目2-2

【保育園との連携】

①連携の様子

- 1年生が、校区内の保育園年長組と年間5回の交流を行っている。

- 1回目 8月 ・はじめましての会（公園で）
- 2回目 10月 ・秋探しの会（公園で）
- 3回目 11月 ・なかよしランドに招待（屯田小で）
- 4回目 2月 ・雪遊びの会（公園で）
- 5回目 2月 ・ありがとうの会（保育園で）



1年生 ～はじめましての会～
「わたしは、〇〇です。よろしくね。」

- 5年生が、3学期に校区内の年長組との交流を行っている。
2月

もうすぐ1年生になる年長組の園児たちを招待して、学校の様子を紹介できるゲーム(算数・国語・音楽・体育・図工・生活科など)を楽しく体験できるワークショップを行った。

やさしく話しかける5年生の姿がたくさん見られた。



②連携に至る経緯

- ・ 1年生の交流は、生活科の学習カリキュラムに位置づけ、
5年生の交流は、次年度に最上級生となる意識と意欲を高める活動となることを願って、総合的な学習の時間のカリキュラムに位置付け交流を始め、何年も継続している。

③連携先との関係

- ・ 校区内にある歩いて2分ほどの近隣保育園なので、交流がしやすい。

1年生 ～なかよしランド～
「つりぼりで楽しんでね。」



【成果】

- ・ 年下の相手にどのように声をかけ、どのように接すると嬉しいと思ってもらえるかを考える経験となり、相手意識が育った。
- ・ 年下の園児たちが楽しんでもくれるためのゲームの計画や運営、話の仕方の工夫を行うことを通して、創造力や表現力、思いやりの心が育った。

5年生の交流
「入口の飾りにも心をこめて」

【考察】

- ・ 年度初めに、保育園の先生と打合せの会を行い、昨年度の成果をまとめ、引継ぎながら、今年度さらにどういう交流を行っていくかを話し合っている。そのことにより、年々、交流がより充実したものになってきている。子どもの成長につながる交流となっているので今後も継続していきたい。



5年生の交流～ワークショップ～
「ここは、国語コーナーだよ」

北
区

札幌市立茨戸小学校

〒002-8041

北区東茨戸1条2丁目

【茨戸メリー幼稚園との連携】

いわゆる小1プロブレムが起きている昨今、幼稚園・小学校の接続がスムーズに行われるように情報を交流することや、園児や児童が実際に交流することで望ましい心身の発達を促進することをねらいとして、今年度から幼稚園との連携を積極的に進めていくこととした。

交流先の茨戸メリー幼稚園は、学校に一番近く、毎年7～8名程度の入学がある、本校の子どもたちにとっても身近な幼稚園である。今年度は計画的に連携を図るために、1学期に幼稚園と話し合いをもち、下記の3つの活動により、連携を進めることとした。

学習発表会への 幼稚園児の招待



11月に実施した学習発表会の児童公開日に、メリー幼稚園の年長クラス(97名)を招待した。

1年生の発表のみ観覧したが、事前に1年生から幼稚園児へ招待状を作成することで、お互いの意識を高めることにつながった。この交流により、1年生にとっては、発表への意欲化につながり、幼稚園児にとっては、見たことの無い小学校のステージでの発表を楽しみ、小学校の行事への憧れにつながった。また観覧後、幼稚園からお礼のカードが届き、1年生にとって励みになった。

1年生「生活科」 の授業への参加



「お店屋さんごっこ」のお客さんになってもらいました。

12月の生活科「お店屋さんごっこをしよう」の店開きの場面に幼稚園児にお客さんになってもらい交流した。本校の1年生は21名と少ないため、97名の幼稚園児のお客さんを前に、相手意識をもった活動を行うことができ、とても貴重な機会であった。「幼稚園の友達でもわかる説明は?」「自分から声をかけるとお店に来てもらえそう…」「このルールでは難しいな。少し易しくするには…」と、経験から学ぶことも多く、1年生だけの活動に留まらない、年下の子どもたち相手の交流は大変有意義なものとなっていた。

次年度は、人数や活動内容によっては、2年生も含めた生活科での交流や2年生の校区探検に幼稚園訪問を組み入れていくことも検討していきたい。

教員同士の交流

学校公開日や参観日等での授業を見学してもらったり、幼稚園の施設や日常活動を見せてもらったりする活動を3学期～次年度にかけて実施する予定である。

札幌市立和光小学校

〒001-0034

北区北 34 条西 7 丁目 3-2

【行事での連携】

本校では近隣の幼稚園・保育園と連絡を取り合い、各行事の時に保育士さんに参観していただいたり、入学前の状況を教えていただいたりしています。

今年度は「50周年記念式典・祝う会」にも来ていただき、卒園生の成長の様子を見ていただきました。

学習発表会では、毎年、近隣の幼稚園・保育園の園児を、1年生の最後の練習の時に招待し、交流しています。園児からたくさんの拍手をもらい、また「おもしろかった」「とても上手だった」などの感想をもらい、本校の1年生は自信をつけて本番に臨めるようになりました。また、園児たちも「楽しそうだ」とか「早く小学校に来たい」などと、小学校に上がる期待感をもつことができるようです。

2月には、札幌北幼稚園の年長園児と本校の1年生が交流しています。1年生が塗り絵やパズルなどを作って、園児に楽しんでもらえるように取り組んでいます。昨年度は102名の園児が来校し、少し緊張しながらもとても楽しそうに遊んでいました。

【成果】

幼稚園・保育園の年長の園児が小学校の学習発表会を見学することによって、小学校入学への意欲と期待を高めることができているようです。また1学年上の子どもたちと交流することで、入学してから小学校に登校する時の安心感につながっているようです。

小学校にとっては、入学前に次年度に入学する子どもたちの様子を見ることができ、また少しでも学校での様子を見せることで、学校生活に慣れるための一助とすることができています。

1年生児童にとっては、園児と関わることで自分の成長を振り返ったり、思いやりの心を育むことにつながったり、自立への基礎を養うことにつながっています。

【考察】

学習発表会練習の見学は、年度当初から日程調整をして多くの幼稚園・保育園に来ていただけると良いと考えています。また、行事の見学などだけではなく、さらに広範囲で深みのある交流を模索していく必要があると感じています。

今後は本校の教職員と、幼稚園・保育園の保育士さんとの交流の機会も模索していきたいと考えています。



【今年度の1年生の劇の発表】



【発表の様子を見学する札幌北幼稚園とエンジェル保育園の園児たち】



【1年生と札幌北幼稚園の園児との交流】

札幌市立新琴似西小学校

〒001-0911

北区新琴似 11 条 15 丁目 1-5

【近隣の保育園との連携～1年生と給食交流】

・連携の様子

本校では隣接する幼稚園・保育園と様々な形で交流を行っている。5年生が各園と行き来して一緒に活動する交流を1・2学期に行い、1年生は園児を迎えて給食を一緒に食べる交流を2学期に行っている。

1年生との給食交流では、昨年度から「お勉強体験」してもらい、入学への意識を高める取組を行っている。特別なことをするのでなく、日常の授業に参加し、その雰囲気を味わう事を通して小一プロブレムの緩和を図るねらいがある。

・連携に至る経緯

もともと小学校のグラウンドと保育園が接しており、同じ地域の子が通っているため、卒園生の多くが入学してくる。そのため、以前から交流が盛んに行われてきた経緯がある。今もことあるごとに連絡を取り合って、教育活動を進めている。



【教室で「お勉強体験」している様子】

【成果】

・1年生の意識が変わる

普段学校の中では一番年下で守られる存在の1年生が、自分たちより年下の園児に対してどのように接したらよいかを実践的に学び、「お兄さん・お姉さんの気分」を味わう機会となった。相手意識をもって活動することで、たくさんの気づきを得ることができたのは大きな成果であった。

・保育園児が見通しをもてる

保育園の園児にとって小学校入学は大きな期待と共に不安の要因にもなる。このよう

な小学校での活動を経験することで不安を取り除き、期待感をもって入学を迎えることができるのではないかと考えている。

【考察】

- ・学習場面を見せることも1年生にとっては学びであり、わずか15分間でも大変有意義な時間となった。今後も交流することでお互いのプラスになるように計画していきたい。



【一緒に楽しくお話ししながら給食を食べました。】

札幌市立太平小学校

〒002-8021

北区篠路1条2丁目

【あかつき篠路保育園・太平保育園との連携】

本校では、5年前から毎年11月にあかつき篠路保育園との交流を、2年前からは、太平保育園も加わって1年生と交流を行っています。学習発表会が終わった後に交流会を設定し、1年生が発表した劇などを、保育園の子どもたちに見せています。

その後1年生が司会をして、「じゃんけん汽車ぽっぽ」や「猛獣狩りに行こうよ」などの遊びを通して交流しています。

校区にある保育園と交流のきっかけは園長、校長との連絡が始まりですが、継続して行ってきたことにより、今では互いの先生の交流も自然になされています。連携先との関係も大変良好です。

【成果】

保育園との交流が活発になったことで、園児たちは小学校の様子を早い段階でイメージできるようになり、交流会を楽しみにしていると聞いています。

また、太平小学校の1年生も久しぶりの自分たちより下の子たちとの交流で、「しっかりやろう」「楽しく過ごそう」という意欲にあふれ、成長が期待される会になっています。

教職員同士の信頼関係も生まれ、引継もきめ細やかに行われるようになってきています。

【考察】

無理せず取り組むことを考え学習発表会後に設定しました。1年生は園児に自信をもって披露できるものがあり、園児にとっても就学時健診前後ということで、小学校を意識する良いタイミングであると考えております。

幼保小連携推進協議会も同じグループになりますが、もっと自然な形での交流。例えば、小学校の公園探検と保育園の公園遊びと日程を合わせて、子どもたちの関わりから遊びを作り出す計画も話し合っていますが、まだ実現されずにいます。今後実現できるよう話し合っていきたいと考えています。



【学習発表会の劇を保育園の子どもたちに見せています】



【一緒に「じゃんけん汽車ぽっぽ」で遊んでいます】



【太平小学校ホームページで紹介】

札幌市立新琴似南小学校

〒001-0901

北区新琴似1条3丁目1-1

【保育園との連携】

・連携の様子

5年生が交流内容を計画して園児との交流をしている。児童は、事前に保育士の方と相談をしてアドバイスをもらい、園児に喜んでもらえる取組を考え、活動している。交流では、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児とそれぞれ交流するグループを決め、体を動かす遊びや、工作、紙芝居など、その年齢に合った取組を行っている。



【園児と、折り紙をしている】

・連携に至る経緯

学校近隣の地域の人々との交流を多くもち、人と人の絆、思いやり、敬う心を育てていきたいという考えから、地域の幼稚園、保育園、高齢者施設との交流を行っている。

保育園との交流は、総合的な学習の時間を使い、2年前から実施している。

・連携先との関係

交流に入る前に、保育園と小学校とで、日程やねらい、子どもの様子などを交流し、打合せをする。小学校の方で原案を立て、保育園に連絡し、アドバイスをいただきながら進める。

【成果】

- ・連携することで、保育園の保育方針や小学校の教育方針などを理解する機会となっている。
- ・5年生にとっては、園児と接することにより、喜びや親しみ、思いやりなどの気持ちをもつことができる。また、園児にとっては、小学生と接することで、小学校に対する不安や心配が和らぐことにつながる。
- ・5年生にとっては、園児を喜ばすためにはどのような取組をしたらよいかと、意欲的に学習する姿が見られる。また、園児たちは、小学生との交流を楽しみにしている。

【考察】

- ・交流することにより、人の気持ちや立場を推し量って接することや、人との協力、責任感などを育てることにつながっている。継続する方向で考えている。
- ・秋から冬に向かう時期に行っているが、今後、交流する時期の見直しを検討する。

札幌市立新光小学校

〒001-0901

北区新琴似1条12丁目1-1

【そうせい幼稚園との連携】

年間4回程度の幼稚園との交流を行っている。

◆種いもを植えよう（5月）

種いもを植えた後は、小学校の遊具等で一緒に遊んだりしながら交流を図っている。

◆おいもほり・おいもパーティー（9月）

いもの収穫後は、茹でた芋と一緒に食べたりしながら交流をしている。

◆学習発表会見学（11月）

1年生の練習風景を見学に来る。

◆小学校探検（2月）

学校内の様々な教室を見学したり、一年生の授業風景を見学したりしている。また、学校の先生への質問コーナーなどを設け、子どもたちの疑問や不安などにも応えて頂く場面も設けている。



小学校の畑で幼稚園児と一緒に種いもを植えている様子……。



おいもパーティー……。

上記の他にも、幼稚園の先生に小学校での活動の様子を見学に来て頂いたり、小学校からも幼稚園に1年の担任が訪問し、子どもたちの成長の様子を報告したり、お互いの教育活動の充実を図るために、教師間での幼小懇談会を行っている。

【成果】

- ・連携前は小学校入学後、学校生活に慣れるまで時間がかかったり、不安をもったりする子が多かったが、連携を始め、年に数回ではあるが、実際に小学校に来ることにより、スムーズに学校生活に入れる子が多くなった。また、学習発表会や授業風景の見学は、後輩から見られることで、お兄さんお姉さんの意識をもって学習活動に取り組んでいる。

【考察】

- ・保護者も幼稚園との交流があることで、大きな不安が少なく就学がスムーズにできたと大変喜んでいる。
- ・今のところ年に数回の交流ではあるが、より交流を深め新たな取組としては、どのような活動が適切か検討する必要がある。しかし、それぞれのカリキュラム等もあるので、お互いが無理なく行える形で継続していきたいと考えている。

札幌市立屯田南小学校

〒002-0855

北区屯田5条4丁目6-1

【つよし幼稚園との連携】

～年3回の交流会～

屯田南小学校では校区内にあるつよし幼稚園の年長の幼児さんと1年生とで、年3回の交流会を実施。

- ・1回目： 9月 つよし幼稚園にて ゲームを中心とした集会
- ・2回目： 11月 屯田南小学校にて 学校の教室などを案内
- ・3回目： 2月 屯田南小学校にて 雪中運動会



1回目の交流
じゃんけん列車
で遊んでいます



1回目の交流は顔合わせ、2回目は学校案内、3回目は雪遊びなど、小学校の入学への意識を高めていける活動を考え、実施している。また、幼稚園の先生方の御意見を取り入れ、給食交流も実施している。幼稚園児が実際に小学校の給食を食べることで、入学に向けての期待感を高めることをねらいとしている。

【 成 果 】

- ・幼稚園との交流を行うことで、1年生は「自分たちはお兄さん・お姉さん」という意識が生まれ、「幼稚園の子どもたちに伝えるにはどうすればいいのか」ということを、自分たちの経験を通して一生懸命考えられるようになった。
- ・幼稚園の先生とも顔を合わせる機会が増えることで、お互いの取組や子どもの様子などを交流することができるようになった。

【 考 察 】

- ・この取組を継続していくことで、小学校では生活科のカリキュラムに位置付け、学習の一環として取り組むことができている。その取組が記録化されることで、次の1年生にも内容が引き継がれ、活動が続けることができている。
- ・お互いの交流をすることで、幼稚園と小学校が顔を合わせる機会が増え、教員間の距離が縮まった。子どもの様子を交流し合いながら、入学に不安がないよう、引き継ぐことができる。
- ・現在はつよし幼稚園との交流が中心であるが、校区内にある屯田保育園とは、小学校の運動会練習の見学などを実施している。今後も、双方に無理のない形でのつながりを模索していきたいと考える。



屯田保育園の園児さん
運動会のよさこい練習の見学

札幌市立あいの里西小学校

〒002-8072

北区あいの里2条3丁目9番1号

【あいの里保育園との交流学習】

ようこそ！あいの里西小学校へ

＜日時＞12月17日（水） 2, 3校時（10:00～11:00）

＜場所＞玄関ホール→1年ワークスペース→理科室・音楽室・コンピューター室
→体育館→玄関ホール

＜内容＞

1 玄関ホールであいさつとグループ作り … 10:00～

- * 1年生はグループごとに並んで待つ
- * 園児が来たら、歓迎の挨拶をする
- * 同じグループの子の名前を呼んでグループになり、
1年生は自己紹介をする。一緒にワークスペースに行く。
- * 学校たんけん紹介グループはそれぞれの教室で準備する。

2 学校たんけん … 10:15～

- * 全員そろったら学校たんけんに出発する。
理科室・音楽室・コンピューター室
- * 体育館に戻ってきたら、先生に報告し、記念写真を撮ってから、
グループごとに遊んで待つ。

3 体育館で、ゲーム、おにごっこ … 10:35～

- ①もうじゅうがりにいこうよ
(パンダ、ライオン、マントヒヒ、アフリカゾウ)
- ②おにごっこ

4 玄関ホールでおわかれのあいさつ … 10:50～

- * 最初の形で並ぶ
- * 一緒に歌う「にんげんっていいな」…園児も歌える歌にする。
- * メッセージカードを渡す…受け取る園児を決めておいてもらう。



北
区

【成果と課題】

平成26年度は、インフルエンザの流行により、交流は中止となったが、準備段階も含め、保育園の子どもたちを迎えるためにと、熱心に取り組み、大きな成長も見られた。今後も継続していく予定である。

札幌市立百合が原小学校

〒002-8081

北区百合が原 6 丁目 5 番 1 号

【百合が原幼稚園との連携～ものから人へ】

本校と百合が原幼稚園は、徒歩 5 分で行き来できる場所にある。昨年度までに施設の貸与等での交流があり、今年度はそれに加えて、子どもたち同士の関わりを深めたいと考えた。そこで、百合が原幼稚園の教職員と話し合い、季節ごとに交流の場を設けることとした。

- | | |
|------|-----------------|
| 7 月 | 百合が原公園での出会い |
| 9 月 | 体育館で運動を通した触れ合い |
| 11 月 | 学習発表会 取組への招待 |
| 2 月 | グラウンドで雪を通した触れ合い |

直接触れ合うことはもちろん、1 年生から園児にカードを贈ったり、園児からお礼の贈り物をいただいたりして、「仲良くしてね。」「ありがとう。」という言葉と心のつながりを大切にしながら活動を進めた。

【成果】

どの子どもにも笑顔が増え、活動を楽しめたことは大きな成果であった。「楽しかった。」「また、来てね。」という言葉が自然と聞こえ、園児を迎え入れたいという気持ちが高まっていた。

教職員が互いに情報を交流できる環境が整い、どのようなねらいで活動を進めているのか、率直に話し合う関係ができた。交流を重ねることで、互いの教育観を知ることになり、スタートカリキュラム作成の有効な情報となった。また、園児にとっては、小学校入学への憧れをもつことにつながり、本校児童にとっては、2 年生へ向けて自立の礎となる活動と捉えている。

【考察】

今年度、百合が原幼稚園の教職員との連携を図り、スムーズに活動を進めることができた。このことを次年度に向けてどのようにつなげていくかが課題である。

今年度は、活動を始めた時期が夏であったが、もう少し早い時期に始めることも可能である。また、体育館やグラウンドでの動的な活動が中心であったが、今後は教室や特別教室等、他の場所で活動することも考えられる。児童の実態を考慮し、より充実した取組となるよう工夫と改善に力を入れていく。



百合が原公園での出会いを演出



1 年生から園児へのカードの贈り物



体育館で「貨物列車」をして遊ぶ

札幌市立屯田北小学校

〒002-0859

北区屯田9条3丁目4-1

北
区

【幼稚園との連携】～生活科の学習～

本校では、生活科の学習で公園を中心とした自分たちの生活する地域のよさに気づき、親しみや愛着をもつことができるようにすることをねらいとして、地域の幼稚園との交流を取り入れています。

一連の活動を通して、より「地域」とりわけ年齢の近い幼稚園児と活動することで「地域の人」との関わりに焦点化することができると考えました。

特に地域の幼稚園の子どもたちと交流しながら公園を探検する活動では、公園という「空間」、共に遊ぶ「時間」を共有することができました。

12月には、自分たちが練習をしてきた「昔あそび」を園児に教えたり、一緒に楽しんだりし、園児たちの次年度への期待感を高めることができました。

【成果】

子どもたちは、関わりを経験することで、「仲間」意識を高め、次年度同じ校舎で学ぶことも視野に入れ「みんなが仲良く使える」という視点から公園のよさにも気付くことができました。さらに、探検の様子を撮影したビデオや写真を見ながら交流することで、公園遊びの楽しさをみんなで共有することができました。

また、グループでの交流を取り入れ、すべての児童・園児が表現・交流する場をもてるようにし、地域の幼稚園の子どもたちとの交流場面において、自分と地域をつなぐ場としての学校にも焦点を当てることができました。そして、「もっと遊びたい!」「もっと幼稚園の子と友達になりたい!」という思いをもつことができました。

【考察】

交流のねらいを絞り、交流形態ももっと単純化することで、幼稚園児にも理解しやすい活動を提供することができたのではと考えます。また、自然素材を使った遊びの工夫という視点から、「楽しませる」という相手意識をもたせる手だてを考えていく必要があります。

今後は、近隣の保育園と雪を活用した交流を計画しています。



公園での園児との交流



体育館での「むかしあそびをたのしむかい」